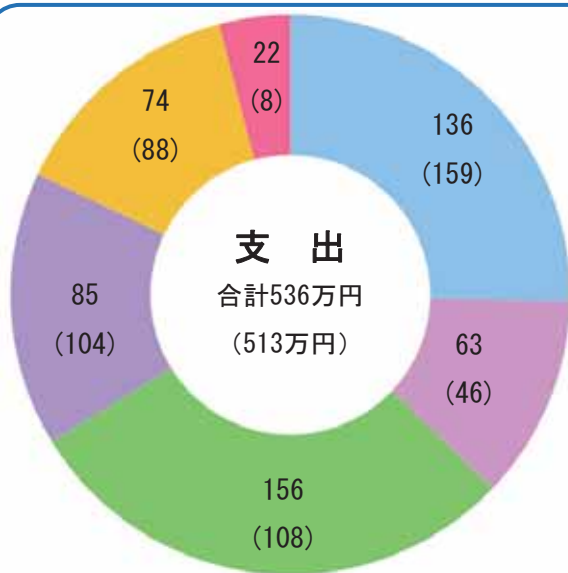


第4 平成27年度当初予算を家計簿に例えると

平成27年度の当初予算を「いしかわ家の家計簿」に例え、平成20年度当初予算と比較してみました。

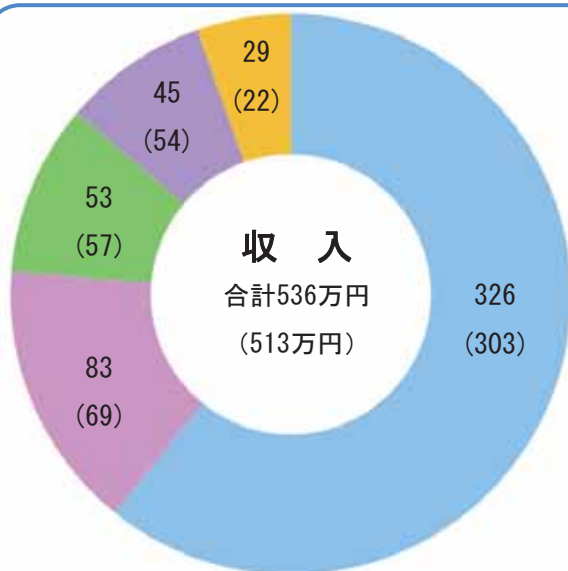
いしかわ家の家計簿

[県予算10億円 = 家計簿1万円]



※ () 内は平成20年度当初予算

- 食費・光熱水費
県の職員、学校の先生、警察官の給料など職員費
- 介護費・医療費
医療や福祉など社会保障関係経費
- 教育費などその他の生活費
教育や文化・観光振興などのソフト事業の経費
- 家の増改築費・車購入費
道路の整備、学校建設などのハード事業の経費
- ローン返済(住宅ローン)
臨時財政対策債以外
- ローン返済(その他のローン)
臨時財政対策債



※ () 内は平成20年度当初予算

- 給料
県税、地方交付税など
- パート収入
使用料及び手数料など
- その他収入
国庫補助金
- ローン借入(住宅ローン)
臨時財政対策債以外
- ローン借入(その他のローン)
臨時財政対策債
- 貯金の引出
基金の取り崩し ※ (H27) 0 (H20) 8

ローン、貯金の年度末残高 (平成26年度決算見込み)

○ローン残高	1,248	(1,150)
うち住宅ローン (臨時財政対策債以外)	847	(944)
うちその他のローン (臨時財政対策債)	401	(206)
○貯金残高	40	(40)

※ () 内は平成19年度末

※その他のローン残高には、
転貸債を含みます。

支出の状況

- ・全体では、「食費・光熱水費」や「介護費・医療費」、「ローン返済」といった、簡単には減らせない経費が全体の約6割を占めています。
- ・「介護費・医療費」については、高齢化の進行に伴い46万円から63万円へと大きく増加しています。最近では年2～4万円ペースで増加しており、家計を圧迫する大きな要因となっています。
- ・「教育費などその他の生活費」については、108万円から156万円に増加していますが、消費税率の引き上げに伴う市町への交付金の増加やいしかわ県民文化振興基金の創設などの臨時的経費によるもので、これらを除けば、平成20年度とほぼ同水準となっています。

収入の状況

- ・「給料」は、消費税率の引き上げなどにより、303万円から326万円と増加しています。
- ・貯金残高は、平成15年度末には、今のおよそ1.5倍の60万円でしたが、平成16年度の三位一体改革により、地方交付税が削減され、いしかわ家でいえば20万円を超える給料が削減されました。その影響により、貯金の引出を余儀なくされる厳しい家計状況が続き、貯金残高は平成26年度末には40万円にまで減少しています。

ローン残高

- ・「住宅ローン」が847万円と大きな額となっているのは、家の増改築や車購入、すなわち公共投資などのハード事業について、国の経済対策に呼応して積極的に実施し、県債発行が多くなったためです。
- ・「その他のローン」、すなわち臨時財政対策債については、国の財源不足のため平成13年度から発行しており、毎年残高が増え続けています。この結果、県債残高全体は平成14年度に1兆円、いしかわ家のローン残高全体では1千万円を突破し、平成26年度末には1,248万円になっています。

支出の見直し

- ・いつまでも貯金に頼る生活はできないことから、いしかわ家では支出の見直しに取り組んできました。具体的には、「食費・光熱水費」、すなわち職員費を見直し、7年間で159万円から136万円と大きく減らしています。
- ・これまで、「ローン返済」を着実に進め、住宅ローン残高については、944万円から847万円と大きく減らしてきました。その一方、総額は1,150万円から1,248万円に増えていますが、これはその他ローン残高の増加によるものです。その他のローン、すなわち臨時財政対策債については、将来、国から地方交付税として返してもらえるため、県では、これを除く県債残高を前年度以下に抑制することを目標とし、平成15～26年度まで12年連続で達成しました。

貯金に頼らない家計を目指して

- ・いしかわ家では、平成24年度以降、3年連続で貯金を引き出すことなく生活を送ることができました。今後は貯金の引出に頼らない生活にとどまらず、貯金を積み増すなど、将来の備えにも努めることとしています。

ふるさといしかわ債

県民参加型市場公募債を発行しました!!

- さる5月29日に県民参加型市場公募債「第13回ふるさといしかわ債」を発行しました。
- 県民参加型市場公募債は、県債がどのような事業の財源に使われるのかを明確にした上で、皆様にご購入いただくことにより、県政への関心を高め、積極的な参加を促すとともに資金調達の多様化を図ることを目的としています。
- 第13回は、交流人口の増加等により大きな経済効果が期待される北陸新幹線の整備及び県立学校の校舎改築などの整備を対象として、20億円（1口10万円で1人100口まで）発行しました。
- 今後も発行していく予定ですので、その際には「ふるさといしかわ債」の購入を通じて郷土いしかわのふるさとづくりに積極的にご参加ください。

<ふるさといしかわ債の活用先>

○北陸新幹線の建設

- ・金沢・東京間が最速2時間28分で結ばれ、交流人口の増加等により、大きな経済効果が期待されます。
- ・金沢・敦賀間については平成24年8月に着工し、平成34年度末の完成・開業を目指すこととされています。



(金沢駅)

○県立学校の整備

- ・金沢桜丘高校（校舎改築）
- ・金沢泉丘高校、羽松高校（校舎等耐震補強）



(金沢桜丘高校)